

GK情報レポート

【2010年発行】

vol. 23

新年号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents


1. 『新年のご挨拶』 代表取締役 権田源太郎
2. 神奈川県新技術・新工法展示商談会 in HONDA
3. ネーバル黄銅について
4. マレーシア工業開発庁の幹部ご来社
5. 行政研修の場として当社選ばれる
6. GKギャラリー『第108回GK会』
7. GK沿革(21回)『設備更新で製造効率を高める』
8. 相場情報『2010年第1四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回
覧
印

※バックナンバー (Vol.1~22) をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社



1. 新年のご挨拶

代表取締役社長 権田源太郎

新年明けましておめでとうございます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年を迎えるに当たり、ようやく厳しい一年が終わってくれたという感慨を抱いて
しまいます。

昨年は私ども権田金属にとって大変厳しい一年でした。100年に一度の不況という
言い方はいささか大げさに過ぎるとしても、昨年初めの需要の急激な落ち込みは
第一次オイルショック以後の不況に匹敵する悪さでした。昨年後半からは需要が
戻ってきたものの、2008年前半に比べ6～7割の水準にとどまっています。

中には昨年もいい業績だったお客様もいらっしゃると思いますが、各社様にとって
押しなべて昨年は厳しい一年だったと思います。

さて、今年の景気はどのようになるのでしょうか。

第一四半期はまだ足踏み状態が続くと思いますが、第二四半期以降は景気も上向いて
くると思っています。国内の消費も若干上向いてくると思いますし、

外需の上向き傾向と、為替の最近の円安傾向に伴う収益向上が期待されます。

しかしながら、景気の上向きも足取りは重いものになると思いますので、
全業種が良くなることは無いでしょうし、また良い業種の中でも企業による違いは
大きなものがあると思います。

そうしたまだまだ厳しい環境の中で、私ども権田金属は基礎産業素材の提供を通じて、
皆様にとってお役に立てる企業であり続けられるよう努力をしております。

品質、納期はもちろんのこと、新製品のご提供もいろいろと続けてまいります。

何かお困りのことがございましたら、ご遠慮なくお声がけを頂きたいと存じます。

今年も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 神奈川県新技術・新工法展示商談会 in HONDA

- 1、 主催：神奈川県新技術・新工法展示商談会実行委員会
- 2、 場所：栃木県芳賀郡 （株）本田技術研究所四輪 R&D センター内
「グローバルプラザ」
- 3、 日時：2009年11月18日（水）
- 4、 来場者：708名
本田技研工業（株）及びグループ・関連会社は新技術、新工法、新製品等の研究開発のため、高い技術力を持つ企業の情報を求めています。
神奈川県内の中小企業の販路開拓を支援するとともに、大手自動車メーカーの研究・開発員と直接対話することで出展企業の営業力、技術力の向上を図ることが目的で開催されました。
出展企業は59社でした。当日は雨にもかかわらず大勢のホンダ及び関連会社の方がお見えになり好評を博しました。マグネシウムは軽量化の切り札として、関心の高さが伺えた展示会でした。
- 5、 当社展示



記者 高安

3. ネーバル黄銅について

ネーバル黄銅とは銅 59.0～64.0%、すず 0.50～1.5%、残り亜鉛からなる合金です。特徴は耐食性、特に耐海水性に優れており、船舶などに使用されています。強度があり耐海水性に優れている為、潜水艦のエンジン部品にも使われており、ネーバル黄銅のことを戦前には海軍黄銅などとも言いました。

ネーバル黄銅棒

当社では C4641BF-F, C4622BF-F を製造・販売をしています。

サイズ：115Φ～400Φ

特 徴：耐食性、特に耐海水性に優れています。

用 途：熱交換器、船舶用部品他の製作に適しています。

ネーバル黄銅棒は、規格が厳しい船舶用の復水器の放熱板などにも使用されています。

ネーバルリング

産業用モーター向け …… 製油所のポンプ等に使用されています。

半導体製造装置向け …… 大径レンズの枠材や接続部品として使用されています。

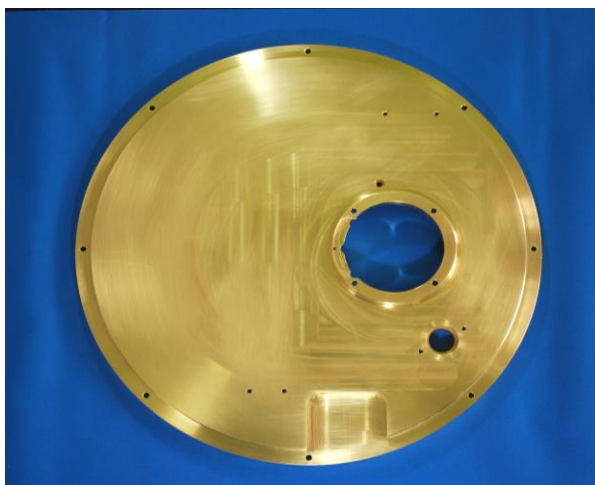
電力設備向け …… 海底ケーブルの接続部品として使用されています。

船舶向け …… 船舶のプロペラシャフトの軸受けに使用されています。

ネーバル円板

ネーバル円板は電子部品用薄膜の製造装置として広く使用されているスパッタリング成膜装置部品として使用されています。

当社では材料の鍛造だけでなく、表面や水路部分の切削機械加工まで行なうことが出来ます。



当社は以前よりネーバル黄銅を得意としています。お引き合いがございましたら営業部までご連絡下さい。

記者 日吉・工藤

4. マレーシア工業開発庁の幹部ご来社

11月5日、マレーシア工業開発庁の方が来社されました。
マレーシア本国の工業開発庁本部の金属・金属加工部から部長を始め3名の方、東京事務所からは所長以下2名の合計5名の方です。
訪問の目的は、日本における鉄鋼、非鉄業界の動向や今後の方向性を学んで、マレーシアにおける金属・金属加工の発展を促す政策立案に役立てるとのことでした。当社からは社長、専務が出席し会社説明を行ったあと意見交換を行いました。当社の説明の中では、型打鍛造事業とマグネシウム合金薄板事業について特に興味をもたれたようです。
マレーシアは電子、電機産業が盛んで、海外からの投資を多く受け入れており、その中では日本からの投資が一番多いとのことでした。
当社に対して、マレーシアに関して取引に役立つような企業や情報があれば提供したいとの申し出もあり、大変有意義な話し合いの機会を持つことが出来ました。

記者 総務 山本

5. 行政研修の場として当社選ばれる

11月19日、人事院公務員研修所による第209回行政研修の一環として各省庁の方が来社されました。
法務省や国土交通省など省庁の課長補佐級の方6名です。
訪問の目的は、「中小企業と地域振興」という政策課題の研究の中での実地研究として当社を始め相模原地区の12社を企業訪問し、今後の中小企業振興策を考えるということでした。
当社からは社長、総務部長が出席し会社説明・工場見学を行ったあと意見交換を行いました。当社の説明の中では、マグネシウム合金薄板のサンプル品などを実際に手に取り興味をもたれたようです。
意見交換では、研究開発・助成金制度・産学連携・海外進出・人材育成・中小企業のCSR・不動産の有効活用等で行政側がどんなことが出来るかなど、多岐に亘り社長と意見交換を行いました。
当社としましても、各省庁の将来の幹部となる方々と話し合いの場を持てた事は大変有意義でした。

記者 総務 清水

6. 第 108 回 GK 会

2009 年 11 月 12 日（木）に相模原ゴルフクラブ東コースで第 108 回 GK 会を開催しました。東コースはフラットですが距離が長く、左右に林が有り、曲げてしまうとスコアを崩しやすい難しいコースです。GK 会は当社のお取り扱いしている会社との親睦と情報交換を目的として年 2 回開催しているゴルフの会です。

当日は小雨模様の中でのスタートでしたが、スタート後にお天気は回復し皆さんプレーを楽しんでいらっしゃいました。優勝は片岡金属株式会社の片岡社長でした。片岡社長はシングルハンディでベストグロスも獲得された実力者です。第二位は山崎金属産業株式会社の土谷部長、第三位が泉メタル株式会社の田中常務というという結果でした。

次回は 2010 年春に開催の予定です。



記者 日吉

7. 沿革

権田忠志社長がその一方で、果敢に取り組んだのが設備の更新です。

その前段とし、昭和 47 年相模原の本社工場で、6 トン反射炉を操業している際、北風が吹くと南側の住居から「煙が部屋に入ってくる」という苦情を受け、操業を止めた経緯もありました。そこで、発生くずをリターン材としてビレット、棹銅を購入し、問題を解決しました。これにより銅の製造も飛躍的に生産性が向上しました。

また、四面面削機の導入で銅帯の製造方法も改革しました。こうした経緯を踏まえて、権田忠志社長は会社の将来像を描いて、設備更新計画と新規分野への進出を策定すると同時に、東京営業所開設の布石も打ちました。

その計画は ①鍛圧工場の建設 ②圧延工場の改革 ③押し出し工場の新設
④アルミリング製造などであります。

「80 周年誌あゆみより」

8. 相場情報

1、 電気銅建値推移

09年 10月・・・590円スタート(10月平均610.9円)
09年 11月・・・620円スタート(11月平均636.8円)
09年 12月・・・640円スタート(12月平均655.2円)
10年 1月・・・730円スタート

2、 LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は09年10月の初めに34万5,000トンだったのが、徐々に在庫は増え続け、2010年初めには50万トンを突破した。09年の銅地金生産量は約1,800万トンに対し、消費量は約1,650万トンである。需要面では世界最大の銅消費国である中国は、GDPが8%前後という驚異的な成長率に支えられ需要も旺盛で、SRB(国家物資備蓄局)が08年末から09年6月までの間、銅の戦略的備蓄を行ったほどであった。供給面では中国の旺盛な需要に支えられ、急激な生産調整には至らなかった。特に世界の銅地金生産量の30%以上を占めるチリの銅鉱石生産量は09年の1～8月は対前年同期比で約2～3%の落ち込みで収まった。只、2009年12月下旬にチリのアルトノルテ鉱山やチュキカマタ鉱山でもストに入り、両鉱山共に年明けにはストが短期終結したが、足元での鉱石や地金の供給不安感が強まっている。世界経済を見ると米国や欧州を初めとした先進国はGDP成長率が未だ伸び悩んでいるが、中国は09年1～9月の実質GDPは対前年同期比で7.7%、7～9月に至っては8.9%と際立った堅調さを誇示しており、2010年も中国の需要は堅調であると見られる。以上のような事から、今年は需要は対前年比で微増、供給は横ばい、もしくは微減で2009年ほどの在庫過多にはならず需給は引き締まると見られる。

3、 為替の見通し

米国の2009年7～9月の実質GDP成長率は、対前年同期比3.5%増と5四半期ぶりのプラスとなった。しかし、米国の2009年10月の失業率は10.2%と26年ぶりに10%を突破するなど、依然景気は一進一退の様相を示している。FRB(連邦準備制度理事会)は2009年11月に政策金利を0～0.25%に据え置いた。この為、いわゆる『ドルキャリートレード』が増え、ドル安が進んでいる。現在米国の金融政策は利上げ時期が焦点となっているが、失業率やインフレ率の指標も足元では大幅な低迷が続いているため、金融市場では利上げ開始時期が2010年後半以降になるとの見方が広がっている。このような背景からしばらく円高・ドル安の状態が続くと思われる。

4、 相場の見通しと予測

2009年10月初めにはLME 6,000ドル/t前後だったものが、2009年12月初めには7,000ドル/tを突破し、その後は7,600ドル/t前後で推移している。中国の銅の輸入量は減少、加えてLME在庫は2010年初めには50万トンを超え、着実に増えているにも拘らず相場が高位を維持しているのは、投機資金の流入があるからと思われる。

金はこの1年で30%、銅に至っては140%値上がりした。これは銅がもはや原油や穀物と並び、金融商品化してしまった顕著な動きである。只、一方で非鉄金属の国際市場で銅の年初のファンド売りに対する警戒感が高まっている。エネルギー・非鉄金属・貴金属・穀物などで構成する商品指数の中で、非鉄金属の比率が上昇していることから資産構成の最適化の為、非鉄金属の比率を下げる必要があり、投機筋の売り圧力が強まると見られている。

このような事から、2008年のピークである8,985ドル/tを超えることはないだろうが、8,000ドル/t突破の可能性は十分考えられ、一本調子にはならないが多少の上げ下げは繰り返すものと思われる。

短期予測(1M) LME 7,200~7,800 為替 91~95円
銅建値 700~790円

長期予測(3M) LME 6,700~8,200 為替 89~95円
銅建値 640~830円

記者 高橋

